

企画展

龍之介・犀星

のもとに集った詩人

入場無料

「詩のみやこ」から100年



芥川龍之介

堀 辰雄

萩原朔太郎

室生犀星

写真：国立国会図書館「近代日本人の肖像」

2025年 6月7日(土) ▶ 9月13日(土) ※休館日を除く

会場：田端文士村記念館 JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分

開館時間：10:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日：月曜日(祝日の時は火・水曜)
祝日の翌日(土・日の時は翌火曜)

【主催・問合せ】(公財)北区文化振興財団 田端文士村記念館 TEL.03-5685-5171 【共催】東京都北区 【協力】実践女子大学

初公開資料

芥川龍之介、 幻の詩集!?



芥川龍之介 自筆詩集

龍之介が自作の詩を12篇ペン書きした冊子。龍之介の詩集は生前には発行されていないが、自作の詩を丁寧に記した当該資料は、詩集発行を見据えた製本見本とともなる貴重な資料。詩の一部は龍之介の死後、友人で詩人・小説家の佐藤春夫によって『澄江堂遺珠』に収録された。

大正14年4月、室生犀星を頼って萩原朔太郎が田端へ転入しました。その知らせを聞いた芥川龍之介は、「田端大いに詩的なり」と喜びを友人に伝えています。同じころ堀辰雄も田端に下宿し、犀星や龍之介に師事します。犀星は後年、この時期の田端を「詩のみやこ」と称しました。

彼らが互いを批評し高め合った時代から100年。本展では、田端文士村の最盛期を担った詩人たちの旋律と交友関係を紹介します。

企画展 龍之介・犀星 のもとに集った詩人 「詩のみやこ」から100年

近況報告?



芥川龍之介 佐藤春夫宛書簡
大正14年5月17日 (実践女子大学提供)

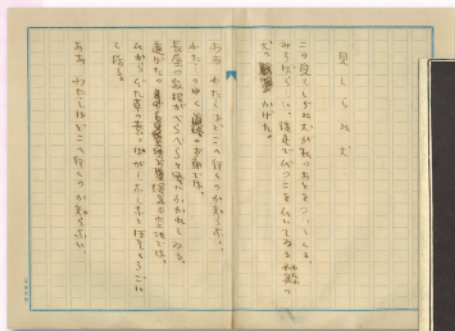
龍之介は友人の佐藤春夫に宛て、「この頃田端に萩原朔太郎来り、田端大いに詩的なり」と喜びを伝えた。また、自宅の軒下に竹を植えたことを絵入りで知らせている。

朔太郎転入の感動を
伝えた手紙

田端は賑やかな詩のみやこになつてゐた。(略)
詩のみやこの王様は芥川龍之介であつた (室生犀星「驢馬」の人達 一中野重治の周囲一)

『月に吠える』収録の詩を 生原稿で!

「日本近代詩の父」と称され、「詩はただ、病める魂の所有者と孤独者との寂しいなくさめである」と語った朔太郎の代表作『月に吠える』。詩稿とともに犀星との友情を紐とく。



萩原朔太郎「見しらぬ犬」詩稿・『月に吠える』大正6年2月 感情詩社・白日社 (写真は複製)



犀星・龍之介の 交友を示す逸品!

石川県金沢市出身の犀星は、郷土の工芸品である九谷焼の鉢を龍之介に贈った。鉢を渡す際に、「これへは羊羹を入れなさい」と告げたという。

犀星が龍之介に贈った九谷焼の鉢



九谷焼の
イラスト入り
一筆箋 新発売
500円



若き詩人たちが生み出した、 青春の結晶

堀辰雄、中野重治ら田端に集った詩人たちが、犀星の後ろ盾のもと発行した同人雑誌。第2号の特別号には龍之介、犀星、朔太郎も寄稿している。

雑誌『驢馬』5月特別号 大正15年5月「驢馬」発行所

龍之介・犀星・朔太郎の孫による鼎談イベントや、講演会、文学散歩はこちらから!

主催・問合せ
(公財)北区文化振興財団
田端文士村記念館 〒114-8523 東京都北区田端6-1-2 ☎03-5685-5171
JR山手線・京浜東北線「田端駅」北口より徒歩2分 ※駐車・駐輪場は隣接の有料施設をご利用ください。

<https://kitabunka.or.jp/tabata/>
✉ @bunshimura



(仮称)芥川龍之介記念館 ▶▶▶ 最新情報

東京都北区は田端1丁目の旧居跡地に(仮称)芥川龍之介記念館を開館する予定です。北区では、記念館に設ける書斎の再現に対して寄附を募っており、これまで200件以上、約700万円のご寄附をいただきました。当時を「体感(feel)」できる魅力的な記念館開館に向け、ご支援の程お願いいたします。

【寄附のお問合せ】

北区役所文化施策推進課 ☎03-5390-0093 (平日8:30~17:15)



詳しくはこちら



書斎を再現予定 (写真は田端文士村記念館にある復元模様の書斎部分)